

9
預言者たち
聖徒伝 143

「切に求めよう 主を知ることを」

ホセア書4～6章

イスラエルの罪の告発

アウトライン

0. イントロダクション

I. 主に告訴されるイスラエル 4章

II. 指導者たちの罪 5章

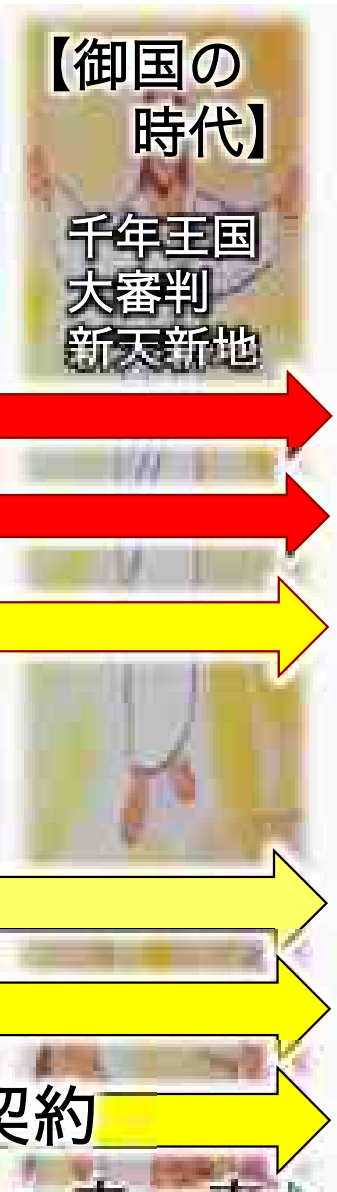
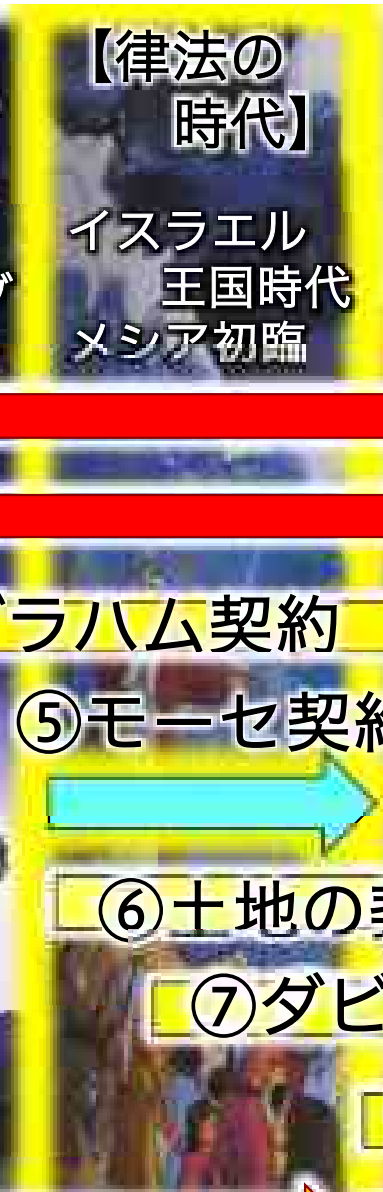
III. 終末の裁きと民族的回心 6章

IV. まとめと適用

主を信じたあなたに

必ず起こること





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

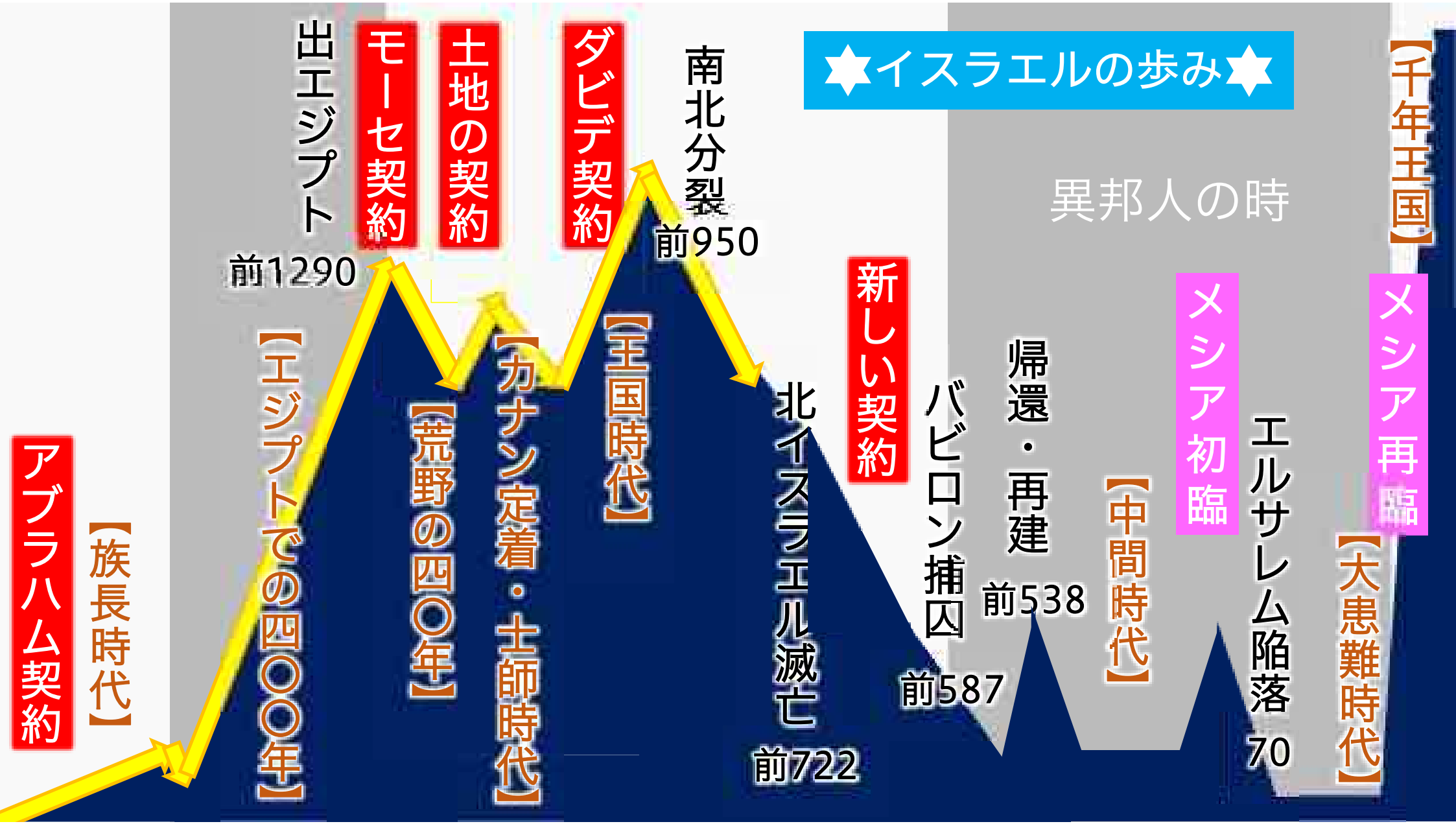
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

新しい契約

メシア初臨

メシア再臨

アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

【千年王国】

預言書の重要性を確認しておこう

- 南北分裂以降に記されたのが、預言書。
預言書 → 預言者が直接記した預言の書。
- 大預言書 …分量が大。イザヤ、エレミヤ、哀歌、エゼキエル、ダニエル。
小預言書 …分量が小。
ホセア～マラキまで、12の書
- 旧約聖書中、17/33巻が預言書。
→ 旧約の頁の1/3は預言書。聖書全体の1/4。
- オバデヤ書以外の預言書は、新約に引用あり。

預言書を理解せずに
聖書の理解は不可能

死海写本・イザヤ書

ホセア書とは？

■ **著者** … **ホセア** = “主は救う”

父はベエリ = “我が満足” … 父も信仰者。

■ **出身・活動の場** … 北イスラエル

■ **時代** … ヤロブアム2世 (北王国) ~

(南は、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ)

■ **背景** … 偶像崇拝に染まり、裁きは間近に!!



ホセアは身をもって、主の哀しみと憐れみ、永遠の愛を伝えた

ホセア書の構成

① 姦淫の女との結婚 (1~3章)

姦淫の女の不義と復縁、猶予期間へ

① 姦淫の罪

② イスラエルへの裁き (4~13章)

数々の姦淫の罪の告発。
一時的な回復もあるが、
終末まで根本的な状況は同じ。

② 懲らしめ・猶予

③ 終末の裁き

③ イスラエルの回復 (14章)

永遠に主の妻となる

④ 復縁・回復



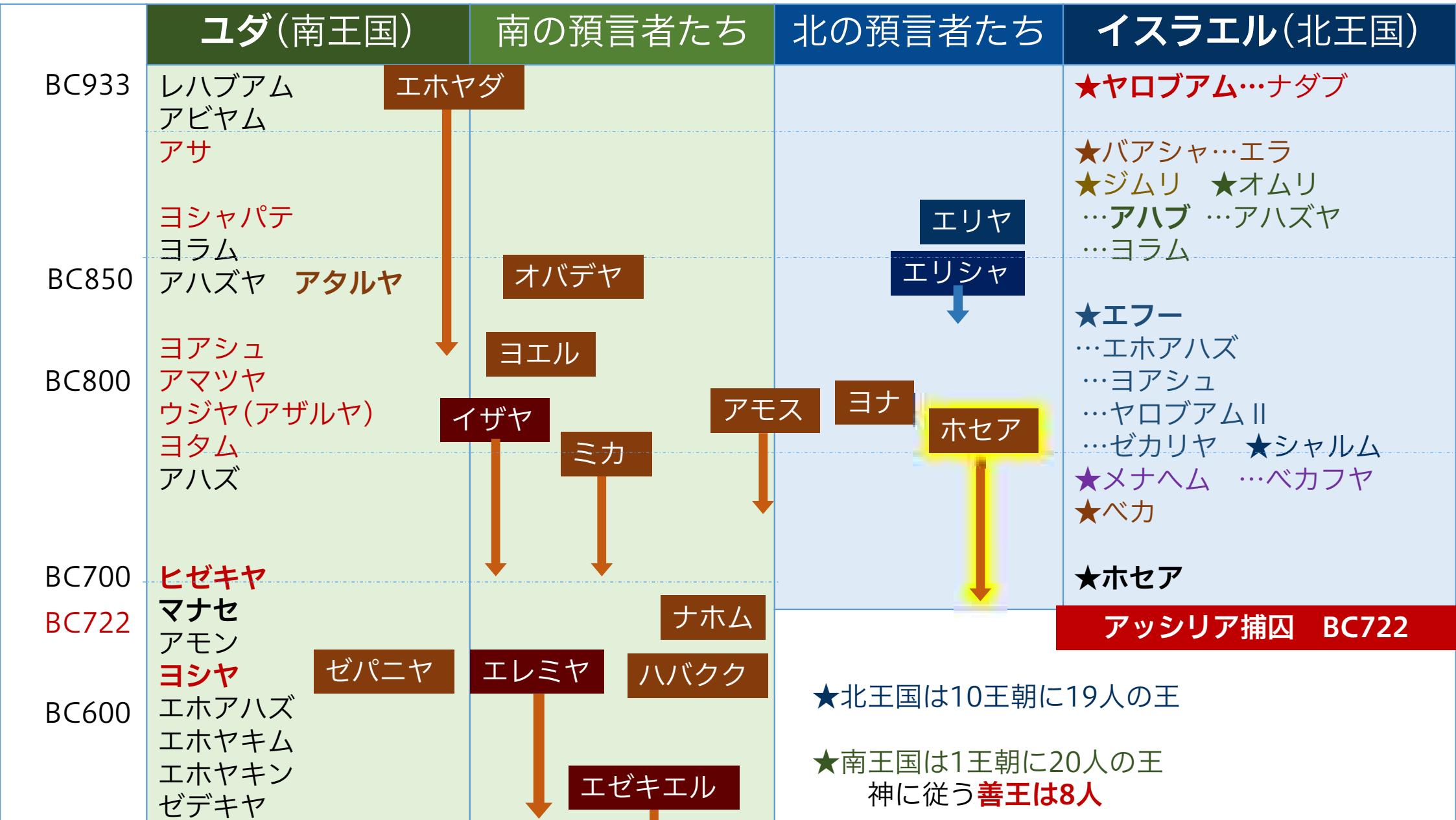
【預言者視点で見る預言書】

- 直近の裁きも終末の裁きも、混然としている。
- ホセア書の直近の裁きの対象は、イスラエル(北王国)しかし、将来の裁きとなると、ユダ(南王国)も含む。



【預言者ホセアが告げたこと】





★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国 イスラエル

南王国 ユダ

エリシャ

ホセア

【エフー王朝】

アモス

エフー

ベカ

20年

エホアハズ

28年

アツシリア捕囚①

ヨアシュ

17年

ヤロブアムⅡ

ゼカリヤ

6ヶ月

16年

シャルル

1ヶ月

41年

メナヘム

10年

南北時代の最盛期

ヨナ

混沌の時代

ヨアシュ ♡

40年

アマツヤ ♡

29年

ウジヤ ♡

52年

ヨタム

ヨエル

イザヤ



1. 主に告誡されるイスラエル

ホセア書4章

エフライムの山地

主の告訴

告発される神の民 ホセア書4:1

イスラエルの子らよ、【主】のことばを聞け。
【主】はこの地に住む者を訴えられる*。この地には真実もなく、誠実さもなく*、神を知る*こともないからだ。

*告発される(新共) …主による罪の告発。

*ヘセツドがない。…愛情(口),慈しみ(新共)

■ 神の恵み(ヘセツド)は、契約に基づく恵み。

→シナイ契約を破ったイスラエルに、
もはや、律法による神の恵みはない。

*体験的に知ることもない。→罪ゆえの断絶

特権を放棄した
イスラエルの姿



主の告訴

地は喪に服す ホセア書4:2～3

呪いと、欺きと、人殺しと、盗みと、姦通*が
はびこり、流血に流血*が続いている。

それゆえ、この地は喪に服し、そこに住む者は
みな、野の獣、空の鳥とともに衰え果て、海の
魚さえも一掃される*。

*十戒がことごとく破られている。

*血を流す。…ノア契約以来の普遍的な罪。

*大患難時代の裁きで、海の魚は死に絶える。

→随所に差し挟まれる終末の裁きの出来事。

主の告訴 祭司の罪 ホセア書4:4~5

「だれも口論してはならない*。だれも人を責めてはならない。あなたの民は、祭司と口論する者のようだ*。

あなたは昼つまずき*、預言者も、あなたとともに夜つまずく*。わたしはあなたの母を滅ぼす。

*主ご自身が告訴し、裁かれるゆえに。

*“祭司よ。わたしはあなたをなじる(三版)”

➔主に仕え、民に律法を教えるのが本来の祭司。

*昼(繁栄)の最中に祭司が罪を犯し、

夜(分裂の時代)には、預言者たちも罪に陥った。



祭司の裁き

知識なき祭司 ホセア書4:6～7

わたしの民は知識がないので滅ぼされる*。あなたが知識を退けたので、わたしもあなたを退け、わたしの祭司としない。あなたがあなたの神のおしえを忘れたので、わたしもまた、あなたの子らを忘れる。

彼らは増えるにしたがって、ますますわたしに罪を犯した。わたしは彼らの栄光を恥に変える*。

*律法の知識のない祭司に、存在意義はない。

*退けたので退けられ、忘れたので忘れられる。

*神殿、都が破壊。祭司の働き場はなくなる。



神の裁きの原則

祭司の裁き 形ばかりの繁栄 ホセア書4:8～10

彼らは、わたしの民の罪のきよめのささげ物を貪り食い、民の咎に望みをかけている*。

民も祭司も同じようになる。わたしはその生き方のゆえに彼らを罰し、その行いのゆえに彼らに報復する。彼らは食べても満たされず、姦淫しても増えることはない*。彼らが【主】を捨てて、姦淫を続けるからだ。

* 民の罪が増加→贖罪の犠牲も増加→懐も潤う

* 適用…現代のイスラエルは、食糧は豊か。

性は乱れ、墮胎が多い(建国以来、200万件)。



靈的墮落 姦淫の靈 ホセア書4:11~12

ぶどう酒、新しいぶどう酒は良識を失わせる*。
わたしの民は木に伺いを立て、棒が彼らに事を告げる*。これは、姦淫の靈*が彼らを迷わせ、彼らが自分の神のもとを離れて、姦淫したからだ。

* 酩酊し神から離れた状態がさらなる罪の原因に。

* 木、木や石の柱が、偶像神のシンボルとされた。

* 4:12と5:4のみ。…悪霊・悪魔

性的姦淫 → 靈的姦淫・偶像礼拝へ行き着く。



靈的墮落

男も女も ホセア書4:13～14

彼らは山々の頂*でいけにえを献げ、丘の上で犠牲を供える。榿の木、ポプラ、テレビンの木の下*で。その木陰が心地よいからだ。それで、あなたがたの娘は淫行をし、あなたがたの嫁は姦通をする。

わたしは、あなたがたの娘が姦淫をしても、あなたがたの嫁が姦通をしても、罰しない*。男たちは遊女とともに離れ去り、神殿娼婦とともにいけにえを献げている。悟ることのない民は滅びに落ちる。

*カナンの偶像礼拝が頻繁に行われた定番の場所。

*放置する。滅ぶにまかせる。➡最も厳しい裁き。



靈的墮落

邪悪の家 ホセア書4:15～16

イスラエルよ。あなたが淫行をしても、ユダを咎ある者にさせてはならない。ギルガル*に行ってはならない。ベテ・アベン*に上ってはならない。

『【主】は生きておられる』と誓ってはならない。

まことに、頑なな雌牛のようにイスラエルは頑迷だ。今、【主】は彼らを広いところにいる子羊のように養うだろうか。

*最初の宿营地。サウル即位の地。預言者学校も。

*“邪悪(災い)の家” →ベテル(神の家)を現す

…北王国のベテルに金の子牛が設置。



偽預言者化した?

強烈な皮肉!!

靈的墮落 淫行の末路 ホセア書4:17~19

エフライム*は偶像にくみしている。そのなすに任せるがよい。

彼らは酒を飲んで、淫行にふけり、淫らなふるまいで恥を愛してやまない。

風*はその翼で彼らを巻き込む。彼らは自分たちのいけにえのゆえに恥を見る*。」

*イスラエルの最大部族 →北王国10部族の別称。

*“欲望の靈(新共)” 「風、靈」=「ルーアツハ」

*神の祝福が取り去られる。





II. 指導者たちの罪

ホセア書5章

イスラエルのぶどう畑

主の告訴

指導者の罪 ホセア書5:1～2

「祭司たちよ、これを聞け。イスラエルの家よ、心せよ。王の家よ、耳を傾けよ。あなたがた*にさばきが下る。あなたがたはミツパ*で罾となり、タボル*の上に張られた網となったからだ。

曲がった者たちは殺戮を極めた。しかし、わたしは彼らすべてを懲らしめる。

*裁きの対象→4章は主に祭司、5章はイスラエル
特に、指導者たちの罪が問われる。

*ヨルダン川東岸

*イズレエル平原(女士師デボラの戦いの舞台)



主の告訴

姦淫のイスラエル ホセア書5:3~4

わたしはエフライムをよく知っている。イスラエルはわたしに隠されていない。今や、エフライムよ、あなたは姦淫をし、イスラエルは汚れてしまった。彼らは、自分の悪行を捨てて自分の神に帰ろうとしない。姦淫の霊*が彼らのうちにあり、彼らが【主】を知らないからだ。

*4:12に前述。悪霊。

■主はイスラエルを知っているが、民は知らない。

何度も罪を指摘されたが、悔い改めない。

姦淫の民は、偶像、悪霊と交わっている。



主の告訴

不義につまづく民 ホセア書5:5～7

イスラエルの高慢はその顔に表れている。イスラエルとエフライムは、自分の不義につまづき、ユダも彼らとともにつまづく。彼らは羊の群れ、牛の群れを連れて行き、【主】を尋ね求めるが、見つけることはない*。主が彼らから離れ去ったのだ。

彼らは【主】を裏切り、他国人の子を生んだ。今や、新月の祭り*が彼らとその地所を食い尽くす。

*犠牲の動物をどんなにたくさん連れていっても。

*本来は、第七月の1日目(新月)の「ラッパの祭り」

→偶像の祭りに様変わりしていた。



患難 懲らしめの日 ホセア書5:8～9

ギブア*で角笛を、ラマ*でラッパを吹き鳴らせ。
ベテ・アベンでときのをあげよ。ベニヤミンよ、
うしろを警戒せよ*。エフライムは懲らしめの日*
に、恐怖のもと*となる。わたしはイスラエルの
諸部族に、確かに起こることを知らせる。

*聖絶を招いたベニヤミンの町。サウル王の都。

*おびき出され、背後からギブアを攻略された。

*南北の境の町。サムエルの故郷。

*ここから裁きの内容が記されていく。

→差し迫った裁きに、終末の裁きも重なる。

主の目には
連続した一つのこと



患難 神の怒り ホセア書5:10~11

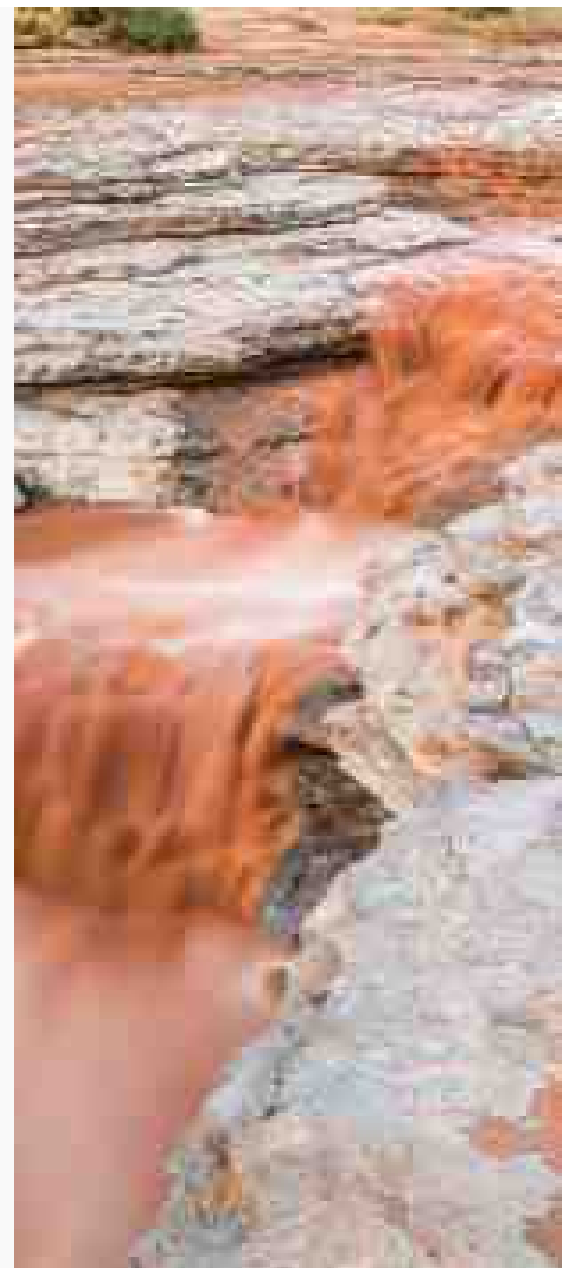
ユダの首長たちは、地境を移す者*のようになった。
わたしは彼らの上に激しい怒りを水のように注ぐ*。

エフライムは虐げられ、さばかれて打ち砕かれる。
彼が自ら進んで人の決め事に従って歩んだ*からだ。

*同族の嗣業の地を奪う → 律法で厳禁された罪

*荒野の水なし川を襲う鉄砲水のイメージ

*独自の祭儀や法を作り、徹底して主に背いた。



患難 けがれた民 ホセア書5:12～13

わたしはエフライムにはシミのように*なり、ユダの家には腐れのように*なる。

エフライムは自分の病*を見た。ユダは自分の腫れもの*を。エフライムはアッシリアに行き、大王に人を遣わした。しかし、彼はあなたがたを癒やすことができず、あなたがたの腫れものも治せない。

*どれほどまでに主を軽んじ、踏みにじったか。

*主を汚れたもののように取り扱ったために、

イスラエル、ユダ自身がけがれとされた。



患難 主の不在 ホセア書5:14~15

わたしが、エフライムには獅子のようになり、ユダの家には若い獅子のようになるからだ。わたし、このわたしが引き裂いて歩き、さらって行くが、助け出す者はだれもない。

わたしは自分のところに戻っていよう*。彼らが罰を受け、わたしの顔を慕い求めるまで。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求める。」

*“主の言葉を聞くことの飢饉(アモス8:11)”

■大患難時代の最大の危機は、命の言葉なる神の不在。この苦しみの末に民族的回心へ。





Ⅲ. 終末の裁きと民族的回心

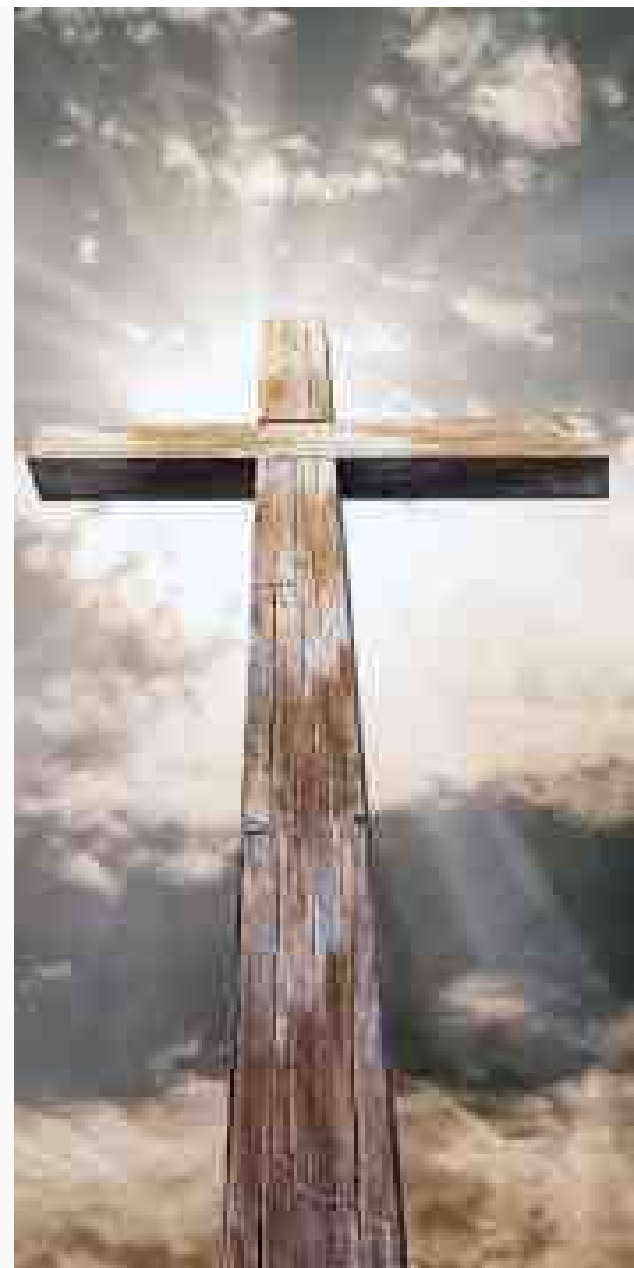
ホセア書6章

回復 回心の呼びかけ ホセア書6:1～2

さあ、【主】に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、包んでくださるからだ。

主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。

- 捕囚から解放され、帰還する。 → 一時的回復。
- 究極的な回復は、再臨のメシアがもたらす。
- 十字架で贖いを完遂し、三日目に復活された。
天から、栄光の王、裁き主として再び来られる。



回復 永遠の回復 ホセア書6:3

私たちは知ろう。【主】を知ることを切に追い求めよう。主は**暁**のように確かに現れ*、大雨のように私たちのところに来られる。地を潤す、後の雨*のように。

*黙 22:16 「わたしイエスは御使いを遣わし、諸教会について、これらのことをあなたがたに証しした。わたしはダビデの根、また子孫、**輝く明けの明星**である。」

*乾季の後半の、収穫をもたらす雨。



患難 主の裁きのことば ホセア書6:4~5

「エフライムよ、わたしはあなたに何をしようか*。
ユダよ、わたしはあなたに何をしようか。あなたが
たの真実の愛は朝もやのよう、朝早く消え去る露の
ようだ。」

*「わたしはお前をどうしたらよいのか。(新共)」



患難 主の裁きのことば ホセア書6:5

それゆえ、わたしは預言者たちによって彼らを切り倒し、わたしの口のことばで彼らを殺す*。あなたへのさばきが、光のように出て行く。」

*黙 19:15「この方の口からは、諸国の民を打つために鋭い剣が出ていた。鉄の杖で彼らを牧するのは、この方である。」

*マタ 24:27 人の子の到来は、稲妻が東から出て西にひらめくのと同じようにして実現するのです。



告発 主が喜びとすること ホセア書6:6

わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない。全焼のささげ物よりむしろ、神を知ることである。

マタ12:7 『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、咎のない者たちを不義に定めはしなかったでしょう。

➔主イエスの神殿での祭司たちへの批判。



告発 契約破りの民 ホセア書6:7

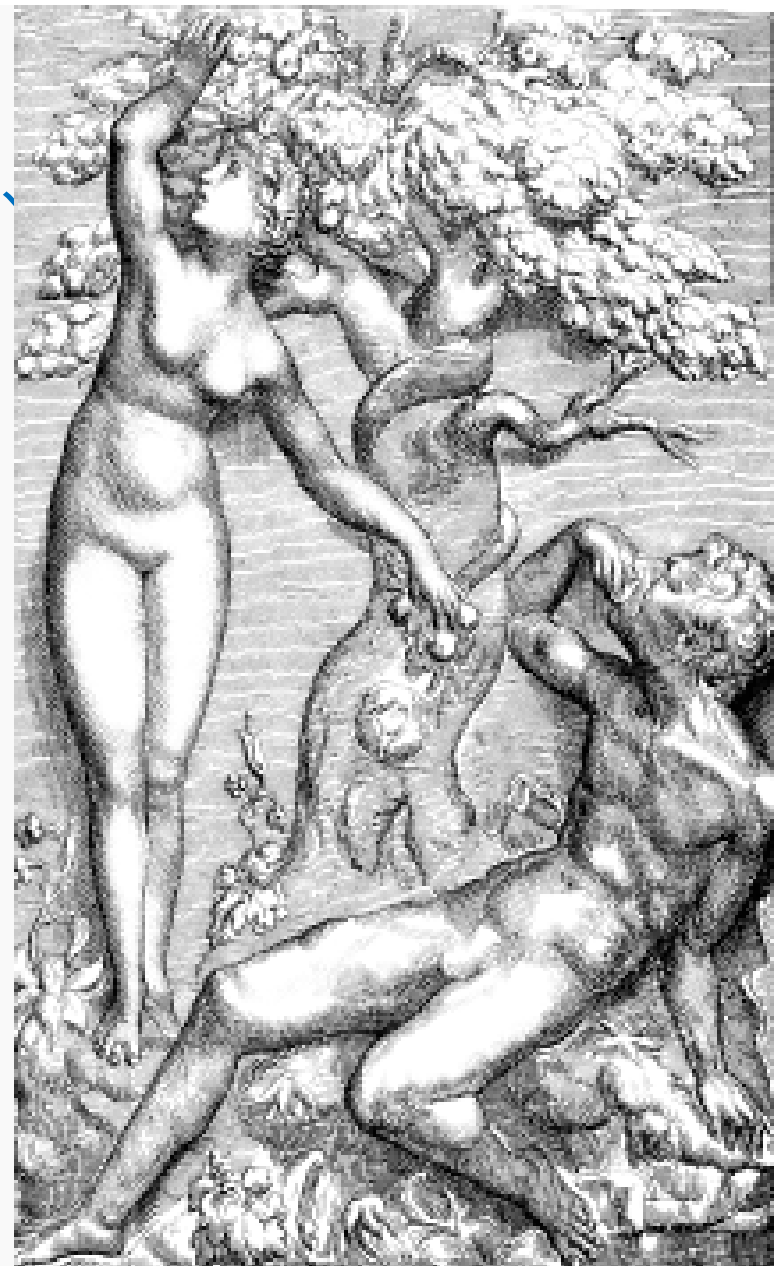
ところが、彼らはアダムのように契約を破り*、
そこでわたしを裏切った。

*アダムが破ったのは、エデン契約。

➔善悪を知る木の実を食べた。最初の罪。

■イスラエルは、シナイ契約、律法を破った。

真実の神に背き、偶像礼拝に陥った。



告発 イスラエルの罪と咎 ホセア書6:8～9

ギルアデ*は不法を行う者の町、血の足跡に満ちている。

盗賊が人を待ち伏せするように、祭司たちは徒党を組み、シェケム*への道で人を殺す。彼らは実に淫らなことを行う。

*ヨルダン川東岸の嗣業の地

→真っ先に異邦の偶像礼拝に呑み込まれた。

*レビ、シメオンが虐殺を行った町。ヨシュアが律法の碑を築き、民が神に忠誠を誓った。



告発 罪の刈り取り ホセア書6:10~11

イスラエルの家にわたしはおぞましいことを見た。
エフライムはそこで姦淫をし、イスラエルは汚れてしまった。

ユダよ、あなたにも刈り入れが定まっている。わたしが、わたしの民を元どおりにするときに*。」

*最終的な回復は、大患難時代の最後。





IV. まとめと適用

主を信じたあなたに必ず起こること

イスラエル(・ユダ)の罪と罰

- 神との約束(シナイ契約・律法)を破った。
唯一の神を離れ、偶像礼拝に陥った。度重なる警告にも悔い改めず。
→ アッシリア捕囚(BC722)、バビロン捕囚(BC586)の裁きを招く。
- 捕囚から解放された後も真の回心に至らなかった。
約束通り来られたメシアを拒んだ。
→ 主イエスの預言通り、エルサレム陥落(AD70)を招いた。
- 現在の不信仰のままの帰還は、世の終わりの裁きのため。
→ 大患難時代の最後に、民族的回心と救いに至る。

預言者を使わされた永遠の神は、すべてを知っておられる

イスラエルに教えられる人の罪の本質

- アダムは、分かっているながら神の約束を破り、禁断の実を食べた。
- イスラエルは、エジプトの奴隷から解放され、律法が与えられた。荒野の40年。約束の地でも繰り返された律法違反。偶像礼拝。
 - ➔ 多くの警告が、預言者を通して与えられてきた。
 - ➔ 罪の結果を分かっているながら、悔い改めなかった。
- 「分かっちゃいるけどやめられない」のが、人の罪の現実、本質。信仰者も誘惑に負ける時がある。問題は、悔い改めがあるかどうか。
- 律法でも、主は、犠牲を通じた悔い改めと和解の道を示されている。

イスラエルに問われるのは、罪を悔い改めなかったこと。

主イエスが教えられた、悔い改めと救いの道

■ 罪人と食事をするのを咎めたパリサイ人に、主イエスは言われた。
マタ 9:13 『わたしが喜びとするのは**真実の愛***。いけにえではない
(ホセア6:6)』とは**どういう意味か***、行って学びなさい。わたしが
来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くため*です。」

* 聖書で、「愛する」の反対は「憎む」。祝福が呪いと対であるように。

➡ 主を愛するとは、主を信じ、主を選択すること。

* 悔い改めて、メシアを信頼すれば、罪は赦される。

➡ 教会時代の今は、メシアの福音を信じて、罪赦される。

* 罪に陥っていたイスラエルを、悔い改めに導き、救うため。

➡ ご自身の民に対する神の最大の愛の表れが、メシアの派遣。

聖書の学びを続けて行くと 必ずあなたに起こること

- 自分の罪を突きつけられる。
見過ごしてきた課題に、向き合うように促される。
→ 悔い改めとは、方向性を変えること。課題に向き合うこと。
- 拒んでとどまれば、成長はない。拒み続ければ、救いの確信も失う。
- 向き合えば、砕かれる。自分の無力さを思い知らされる。
→ これまで以上に主に信頼するしかない、とさらに促される。
- 主による罪の告発 → 悔い改め、打ち砕かれる → 主に信頼する。

悔い改めを重ねる歩みを経ながら、私たちは変えられていく

★ 預言者たちのように 悔い改めつつ歩もう ★

■ 主によく用いられるためのたった一つの条件は、砕かれていること。突きつけられた罪を認め、主に向き直り、課題に直面して砕かれる。

■ とことん打ち砕かれて、預言者エリヤが主に用いられたように、すべての預言者も同じ道を通して、主に用いられるものとされた。

■ 一人の罪人を救いに招き入れるのは、悔い改めた罪人だ。

■ 福音を信じて救われた者を、救いのために用いられる。このダイナミックな主の働きに、大いに用いられて行こう。

主に砕かれることを恐れるな。それこそ幸いに満ちた祝福の道

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ} 罪を^{つみ}重ねてきました。

わたしは、まぎれもない^{つみびと}罪人です。この^{つみ}罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神の^こみ子イエス・キリストが、
^{つみ} ^{あがな} ^{じゅうじか} ^し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

^{はか} ^{ほうむ}

②墓に葬られ、

^{みつかめ} ^{ふっかつ}

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

^{ひび} ^つ ^{じぶん} ^{つみ}
日々、突きつけられる自分の罪があります。

^む ^あ ^{おそ} ^{こころ} ^{しゅ} ^{くだ}
向き合うことを恐れる心をこそ、主がどうぞ砕いてください。

^{じぶん} ^{まず} ^{おも} ^し ^く ^{あらた} ^{もの} ^{さいわ}
自分の貧しさを思い知らされ、悔い改める者が幸いです。

^{あい} ^{ゆる} ^み ^{つか}
あなたの愛と赦しに満たされて、ここから遣わしてください。

^{しゅ} ^な ^{いの}
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」